

太陽光発電事業が生み出す新しいバリュー

2007年3月27日

(株) グリーンファンド

代表取締役

山内浩一

携帯：080-3466-5331

www.greenfund.co.jp

info@greenfund.co.jp

- 1 太陽系第三惑星「地球」上の全ての生き物は惑星の外部から太陽エネルギーを受け、そのエネルギーを活用し光合成を行う真の生産活動を行う植物に依存して生存している。肉食動物も人間も食物連鎖の上流へと遡ればこの法則を否定できない。
- 2 現在温暖化の原因となっている石油、石炭などの化石燃料も元を辿れば太陽の光合成が育てた古代の植物が堆積変化して生まれたものである。
- 3 人類は21世紀に化石燃料を掘削して生計を立てる「エネルギー狩猟型文明」から再生可能エネルギーをベースにした「エネルギー耕作型文明」への転換が急務である。
- 4 再生可能エネルギー（風力、バイオマス、太陽光）の中でも風力、バイオマスは下記のような欠点がある。即ち：
風力：
1 景観を破壊する。2 立地場所の制約を受け易い。3 毎年の収益の変動幅（±25%程度）が大きい。4 発電コストが¥8/kwhと再生可能エネルギーの中で最も低いため最も普及しているが100メートルの高さの鉄塔に取り付けられる巨大な風力発電タービンの技術革新による発電コスト削減の余地は少ない。
バイオマス：
1 エネルギー密度が低いことである。このため例えば現在の世界の化石燃料消費量の4分の1を木質バイオマスで代替しようとする楽観的な計算でも欧州とアメリカの全森林面積を合計した面積以上の森林を必要とし、非現実的である。（“Energies” Vaclav Smil 著 p165）
2 バイオマスエネルギー生産が普及するほど食糧生産のための農地が失われ人口が増加する地球にとって必要な食糧増産というニーズと衝突する。
- 5 一方太陽光の場合、現在¥46/kwhというコストでまだまだ割高であるがこのコストを半減（¥23/kwh）させる割安な太陽電池が製品化されつつある。

(<http://www.nanosolar.com/>) ¥23/kwhとは我々日本の一般家庭が電力会社から購入する際の電力単価と同じである。これらの製品が普及すれば、欧州諸国や韓国で法制化されている固定価格買取制度〔太陽光発電による電力を火力発電による電力よりも数倍割高な固定価格で15—25年間にわたり買い上げる制度〕による補助がなくても、太陽光の電力は火力発電に対して競争力を持ち太陽光による電力に対する需要が爆発的に拡大する。なぜならば電力会社から電気を購入するよりも自家の屋根、壁に太陽電池を設置して発電した方が割安になり、全ての建物、住宅の屋根や壁面が発電所になるからである。

6 弊社は太陽エネルギープラントの開発&売電事業に、これを証券化し年金運用向けの金融商品を開発する金融事業を結合したビジネスモデルを構築し、あと10年程度で確実にやってくるこの太陽エネルギー電力の普及革命において先駆的な役割を担うという社会にも貴重な使命を実現したいと考えている。(以上)